

毒麦のたとえ

2020年6月28日

マタイ 13・24～43

序：先週 種蒔きのたとえ ⇒ 大勢の群衆、弟子たち 解き明かし⇒ 弟子たち

種：神のことば

聞く者の心：4つのタイプ

道端、岩地、茨の中、

良い地

実を結ばない

実を結ぶ

聞くには聞くがわからない

聞いて悟り受け入れる

30倍、60倍、100倍

この世界にいる間のこと

[聞く耳のある者は聞け]

I. 今日 毒麦のたとえ & 解き明かし ⇒ 弟子たち

24～30節

36～43節

毒麦……発芽して成長する途中まで、良い麦と区別がつきにくい

判明するのは、穂が出てから。ひげが長い、色が黒い

良い種を蒔く人 = 人の子 = イエス・キリスト

良い種 = 御国（神）の子どもたち = キリスト信者

毒麦を蒔いた敵 = 悪魔（闇に乗じて、巧妙に密かに）

毒麦 = 悪い者（悪魔）の子どもたち = 生まれながらの人・不信者

畑 = この世界 / 教会

収穫 = この世の終わり

刈り手 = 御使いたち

世の終わり（最終的な審判） = はっきりと峻別

(1) 毒麦は集められて火で焼かれる

つまづきを与える者や不法を行う者たちをゲヘナに投げ入れる

(2) 麦は集めて神の倉（永遠の御国）に納められる

正しい人たちは、天の御国で栄光に輝く

ダニエル 12・1～3

大患難期の聖徒

旧約時代の聖徒 のからだの復活

Ⅱ．種蒔きのたとえと毒麦のたとえの間（31～33節）

天の御国……神の支配・統治（聖徒たちのただ中にある）

千年王国

聖なる都エルサレム＝永遠の御国

教会（奥義）

からし種のたとえ

パン種のたとえ

良：小さな始まり⇒大きく伸長・拡大（力強い生命力）

少量ながら、全体に浸透し、内的、外的拡張

悪：鳥が来て巣を作る（悪魔もまた近づいてきて占領しようとする）

女（偽教師、偽キリスト教派）がパン種を入れる

律法主義（パリサイ人）

権威主義（サドカイ人）

反ユダヤ主義（ヘロデ）

三サトン（教会時代の三巨大キリスト教会）

西方（ローマ・カトリック）教会

東方（正教）教会

プロテスタント諸教会

キリストの再臨が近くなるとその垣根を越えて浸透、混合

Ⅲ．耳のある者は聞いて悟れ（それに伴った生活＝実を結ぶ）

イエスは奥義をたとえによって語られた

悟る者には、さらに増し加えられ、豊かになる

聞いても悟らないなら、ますます貧弱になる

みことばに聴く耳があれば、神のご計画を知らされる

見る目があれば、神が今もなさっておられる御業を見ることができる